

古人のものの捉え方を理解する中学校国語科指導の工夫

—— 思考ツールの活用・古典と現代文との横断を通して ——

長期研修員 金子 めぐみ

《研究の概要》

本研究は、伝統的な言語文化の指導において、思考ツールの活用と古典と現代文との横断を通して、古人のものの捉え方（古典の作者や登場人物のものの見方や考え方）を理解するための指導を目指した。まず、思考ツールを活用することによって、作品に深い影響を与えている当時の時代背景や価値観などと関連付けながら、登場人物の言動の意味や作者の思いを深く考えて、古人のものの捉え方の特徴に気付いていく。さらに、現代文を現代のものの捉え方を補完する資料として取り入れ、ものの捉え方について古典世界と現代とを比較し、その結果を考察する横断の場を設定することにより、古人のものの捉え方の特徴を明らかにすることができるようにした。

キーワード 【国語—中 古典 ものの見方や考え方 思考ツール 教科横断】

群馬県総合教育センター

分類記号：G01-03 平成30年度 267集

I 主題設定の理由

新中学校学習指導要領解説国語編（平成29年7月）において、「我が国の言語文化に関する指導の改善・充実」が示された。これは中央教育審議会答申（平成28年12月）において、「我が国の言語文化に親しみ、愛情を持って享受し、その担い手として言語文化を継承・発展させる態度を小・中・高等学校を通じて育成するため、伝統文化に関する学習を重視することが必要である」とされたことを踏まえたものである。未来を生きる生徒たちには、新しい言語文化を創造していく力とともに、我が国の伝統的な言語文化である古典に親しむ態度が求められている。

古典に親しむためには、古典を知ることが必要である。新中学校学習指導要領（平成29年3月公示）では、「現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を「知る」こと」が示された。この事項は現行中学校指導要領（平成20年3月公示）において、「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること」に該当する事項である。今回の改訂により、「古典に表れたものの見方や考え方」を捉え、理解することの重要性が強調された。

研究協力校（以下、協力校）の生徒の多くは、音読を通して古典特有の言葉の響きやリズムを楽しみ、音声的な面では古典の世界に親しむことができていると言える。しかし、内容的には古文と現代語訳との対応で満足する生徒も多く、古典に表れたものの見方や考え方に関しては、「喜怒哀楽などの人間の感情は昔も今も変わらない」というように具体的な捉え方をしている生徒もいれば、「不思議なことが書いてある」というように曖昧な捉え方をしている生徒もいる。

新中学校学習指導要領解説国語編には、「古典に表れたものの見方や考え方は、作品の登場人物や作者の思いと密接に関連しており、登場人物の言動や作者の思いを考慮することを通して、作品を貫くものの見方や考え方を「知る」こともある」と示されている。古典には自然の風物への賛美や親子間の愛情、愛する者との別離の悲しみなどが描かれている。これらは特別な世界の特別な思いではなく、今の私たちにも共通する思いであり、現代語訳や語注などを参考にしながら作品を読み、登場人物の言動の意味や作者の思いを考慮することを通して捉えることができる。しかし、古典指導においては、作品に深い影響を与えている当時の社会の姿や当時の価値観などの時代背景と関連させなければ登場人物や作者の思いの本質に迫ることが難しいこともある。また、古典に表れたものの見方や考え方の中にある現代との共通点や相違点に気づき、新たな発見をしたり興味・関心を高めたりしていくことが、古典に親しむためには重要であると新中学校学習指導要領解説国語編には示されているが、そのためには、古典に表れたものの見方や考え方を現代のものと効果的に比較し、明らかになった共通点や相違点を考察する横断の場の設定が必要であると考えられる。

そこで、本研究では、古典に表れたものの見方や考え方、言い換えれば古人のものの捉え方を理解するために、登場人物や作者の思いを深く考えることや、古典世界と現代とを効果的に比較して考察する活動を行う。まず、登場人物や作者の思いを当時の時代背景と関連付けて考えていく。その際には、思考ツールを活用することで深い考察と活発な交流が可能になると考える。さらに、思考ツールの活用で気付いた特徴をより明らかにするために、古人のものの捉え方を現代文の内容と比較し、その結果を考察する。比較対象を生徒のもつ経験や価値観だけでなく現代文まで含むことで、生徒のもつ現代的なものの見方や考え方を補完し、具体的な叙述に基づき比較して考察することが可能になると考える。

以上のことから、思考ツールを活用して、登場人物や作者の思いを深く考えることや、古典と現代文とを横断させて、ものの捉え方について古典世界と現代とを比較して考察することが、古人のものの捉え方を理解するために有効であると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

古人のものの捉え方を理解するために、思考ツールを活用して登場人物や作者の思いを深く考えることや、古典と現代文とを横断させてものの捉え方について古典世界と現代とを比較して考察することの有用性を、実践を通して明らかにする。

Ⅲ 研究仮説（研究の見通し）

1 古人のものの捉え方の特徴に気付く

思考ツールを活用して、数値化・可視化を通して情報を関連付けながら古典の登場人物や作者の思いを深く考えることによって、古人のものの捉え方の特徴に気付くことができるだろう。

2 古人のものの捉え方の特徴を明らかにする

古典と現代文とを横断させて、ものの捉え方について古典世界と現代とを比較し、結果を考察することによって、古人のものの捉え方の特徴を明らかにすることができるだろう。

Ⅳ 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「古人のものの捉え方を理解する」とは

本研究においては、「古人」とは、古典作品の登場人物や作者のことである。「ものの捉え方」とは、学習指導要領に示されている古典に表れたものの見方や考え方のことである。「理解する」とは、対象の特徴を明らかにすることである。したがって、「古人のものの捉え方を理解する」とは、古典作品の登場人物や作者のものの見方や考え方の特徴を明らかにすることである。

本研究ではそのために、まず、思考ツールの活用により、古人の思いを深く考えていく。古人の思いは愛情や悲哀など人間の普遍的な感情を核としながらも、当時の社会の姿を色濃く反映しているものであるため、時代背景と関連付けることで古人の思いの本質に迫ることができる。古人の思いを深く考えることで、古人のものの捉え方の特徴に気付くことができると考える。

次に、古典と現代文との横断により、生徒のもっている現代のものの捉え方を現代文の内容で補完しつつ古典世界と現代とを比較していく。ものの捉え方について古典世界と現代とを、叙述に基づき具体的に比較することで、思考ツールの活用によって気付いた古人のものの捉え方の特徴を更に明らかにすることができると思う。

なお、現代に受け継がれている古典作品は、単なる昔の話ではなく長い時を経て磨き抜かれた一流の作品であるとも言える。いにしえの人々の見方や考え方を理解することは、現代の人間に大きな示唆を与える。そのため、古典学習では古典世界と現代との関わりを生徒に意識させることが必要であり、横断の場面は古典単元の複数の過程で設定することが効果的だと考える。そこで、本研究では、つかむ過程と追究する過程で横断の場を設定していく。

また、本研究では、古人の思いに深い影響を与えていると思われる当時の時代背景を代表的な作品ごとに整理した（表1）。

表1 代表的な古典作品に表れたものの見方や考え方の特徴と影響を与えている時代背景

「作品名」（ジャンル）	主題 基調	ものの見方や考え方の特徴的な部分	影響を与えている時代背景
「竹取物語」（物語）	生者必滅 会者定離	・豊かな想像力 ・親子の情愛 ・愛する者との別離	・平仮名の普及による、自由な空想を巡らせた作り話の成立
「枕草子」（随筆）	「をかし」 （華やかな趣）	・繊細な感覚 ・鋭い観察眼 ・時代の枠に収まらないような独自の美意識	・和歌による固定化された美意識
「平家物語」（軍記物語）	盛者必衰 諸行無常	・二つの相反する心情や考え方、立場の葛藤 ・死と隣り合う状況で、武士らしくあろうとする生き方 ・敗者や滅びゆくものに寄り添う視点	・身分制社会 ・武士の価値観
「徒然草」（随筆）	無常観	・人間の愚かさや弱さに対する諦念 ・人生についての機知や教訓	・相次ぐ戦乱や疫病 ・仏教思想
「おくのほそ道」（紀行文）	人為のはかなさ	・万物流転 ・人生は旅	・奥州平泉文化 ・漢詩の影響

(2) 「思考ツール」とは

思考ツールとは、複数の情報を学習者が再構成し、その関係や傾向を見いだすツールである。可視化しながら思考を深められるので、交流にも適したツールであると考えられる。本研究では、古人の思いを時代背景と関連付けるため3種類のツールを想定した。

一つ目は、エリアシートである(図1)。これは、随筆などの作品において、作者のものの捉え方の独自性に気付かせるためのものである。シートの中央に当時の一般的な美意識を教師があらかじめ示しておく。ここを、時代背景エリアとする。生徒は、作者が作品の中で肯定する風物が、当時の一般的な美意識と似ていたり関連が強かったりすれば時代背景エリアの近くに、似ていなかったり関連が弱かったりすればエリアから離して書き入れることで、見た目の距離として作者のものの捉え方の独自性に気付かせることができる。

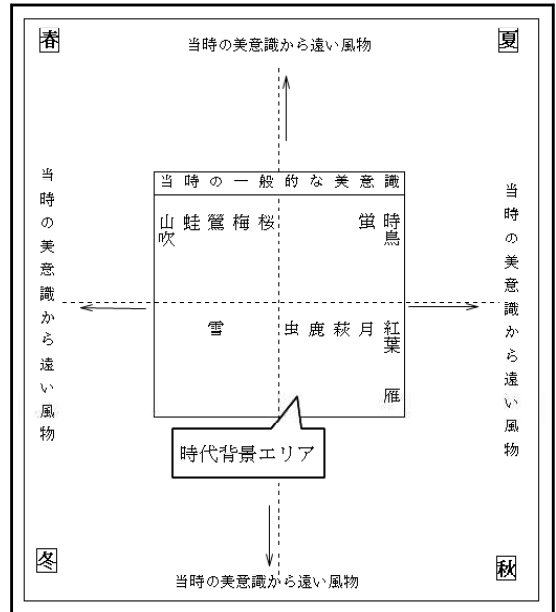


図1 授業実践で使用したエリアシート

二つ目は、レーダーチャートシートである(図2)。これは、物語性のある作品などにおいて、登場人物の価値観を捉えるためのものである。観点は、あらかじめ教師が設定しておく。生徒は、登場人物の言動を根拠に判断していくことで、登場人物が優先する価値観を数値として捉えることができる。また、教師が作品に深い影響を与えている時代背景を精査して観点に設定することで、時代が登場人物に与える影響に気付かせることができる。レーダーチャートシートを複数の作品の比較に使う場合には、共通して読み取れる観点を設定することが必要となる。

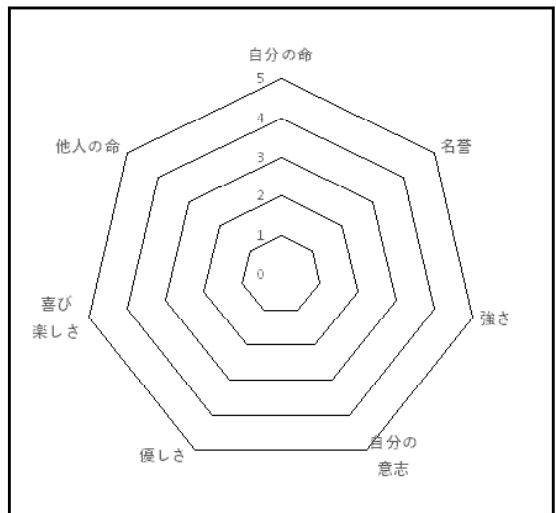


図2 授業実践で使用したレーダーチャートシート

三つ目は、Xチャートシートである(図3)。これは、和歌や俳句などの主題を捉えるためのものである。生徒は三つの観点を関連付けて自分の考えを書き出していく。三つの観点のうち二つは、作品の特徴を生かして生徒が作品から自由にイメージを広げられるものを教師が設定する。三つ目の観点を、作品の理解に欠かせない時代背景とする。「夏草や兵どもが夢の跡」を例にとると、「兵」が誰を指すのか、ということや彼らがどんな功名や栄華を夢見て散っていったのか、というようなことである。この三つの観点を関連付けることで作者が作品に込めた思いや作品の主題に迫ることができる。と考える。

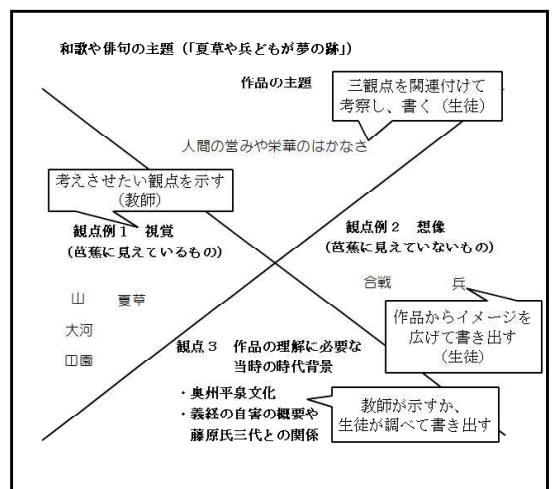


図3 Xチャートシート使用イメージ

本研究では、「枕草子」の実践において、エリアシートを活用して作者のものの捉え方の独自性に気付かせる。「平家物語」の実践において、レーダーチャートシートを活用し、登場人物の価値観を捉える。

なお、Xチャートシートは実践には使用しないが、思考ツールが、古典単元の多くのジャンルで活用できることの可能性を提案するものである。

(3) 「古典と現代文との横断」とは

本研究において、「古典と現代文との横断」とは、現代文の内容を現代のものの捉え方を補完する資料として取り入れることで、古典作品に現代的な価値を与えて学びを動機付けたり、ものの捉え方について古典世界と現代とを比較し、その結果について考察したりする場のことである。古典の登場人物や作者の思いを自分と比べながら読むことで、生徒たちは、各生徒なりに共感や驚きをもつ。その上、生徒のもつ現代のものの捉え方を現代文の内容で補完しつつ古典世界と現代とを比較することで、更に多くの視点からの気づきを得られるようになると考える。また、題材やテーマの共通した現代文を古典と比較させ、そこで明らかになった共通点や相違点について考察することは、古人のものの捉え方の特徴を明らかにするために有効であると考えられる。

本研究では、古典と現代文との横断の仕方を横断の意図により表2のように整理した。横断の仕方として場面、視点、資料それぞれの組合せが考えられる。なお、表3は、表2に基づいて本研究で行う授業実践での組合せを示したものである。

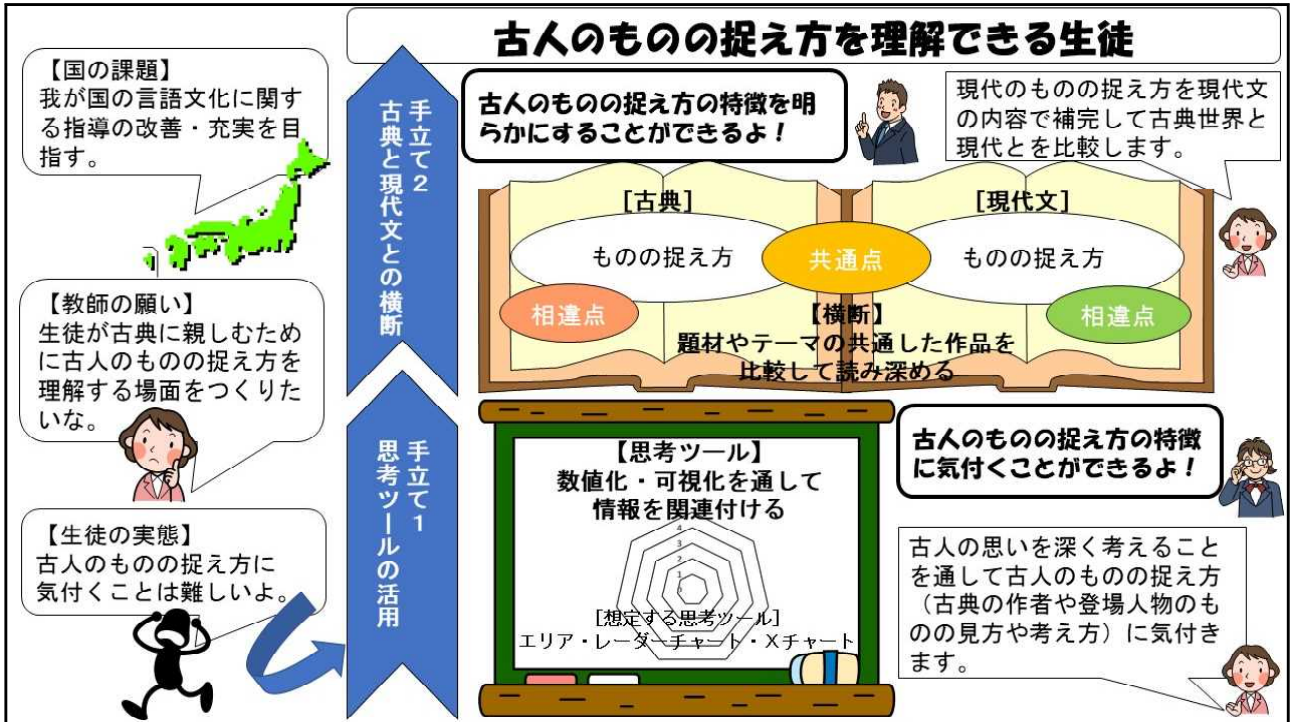
表2 古典と現代文との横断の仕方

横断の仕方		横断の意図
場面	1 つかむ過程	・ 古典作品の現代的価値付けと、古典の学習に対する動機付け
	2 追究する過程	・ 現代文や古典の学びを生かした、叙述に基づく具体的で深い比較とその考察
視点	a 題材の共通性	・ ある対象や事象についてのものの見方や考え方の比較
	b テーマの共通性	・ 作品を貫くものの見方や考え方の比較
資料	i 一般書籍や新聞記事など	・ 現代社会の価値観を取り入れた比較
	ii 国語科などで既習の、教科書に掲載されている文章	・ 精選された文章による比較 ・ 文章の読み取りに時間を掛けない、比較に特化した活動 ・ 既習教材に与える新しい学びの視点

表3 本研究の授業実践における古典と現代文との横断

横断の仕方 横断の意図	古典作品：「枕草子」 (光村図書2年)	古典作品名：「平家物語」 (光村図書2年)
場面	1	1
視点	a 身近な風物の美しさ	b 人間の生き方
資料	ii 「見えないだけ」(光村図書2年)	i 「君たちはどう生きるか」 (図書室配架の書籍)
横断の意図	・ 身近に存在する美しさに注目した古典作品に現代的な価値を与える。 ・ 作品の情景描写の巧みさを捉える、という学習課題への動機付けにする。	・ 人間の生きる姿を描いた古典作品に現代的な価値を与える。 ・ 登場人物の生き方を捉える、という単元課題への動機付けにする。
場面	2	2
視点	a 身近な対象や事象	b 人間の生き方
資料	ii 既習の現代文全体(光村図書1年)	ii 「光る地平線」(光村図書2年)
横断の意図	・ 身近な対象や事象の捉え方について古典世界と現代との共通点や類似点を発見させる。 ・ 発見した共通点や類似点について考察し、作者のものの捉え方の特徴を明らかにする。	・ 登場人物が生きる上で優先する価値観について古典世界と現代との共通点や相違点を発見させる。 ・ 特に相違点に注目して考察し、登場人物が生きる上で優先する価値観の特徴を明らかにする。

2 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

(1) 授業実践Ⅰ

対象	中学校第2学年 1組・3組
実践期間	平成30年6月26日～7月5日 4時間
単元名	「広がる学び」
単元の目標	詩、物語、古典などの文章に触れて言葉の豊かさや多様なものの見方や考え方に気付く。

(2) 授業実践Ⅱ

対象	中学校第2学年 1組・3組
実践期間	平成30年10月16日～10月25日 6時間
単元名	「いにしへの心を訪ねる」
単元の目標	古人のものの見方や考え方を知り、古典に親しむとともに、今を生きる自分たちの生き方を振り返る。

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証方法
見通し1	思考ツールを活用して、数値化・可視化を通して情報を関連付けながら古典の登場人物や作者の思いを深く考えることは、古人のものの捉え方の特徴に気付くために有効であったか。	・学習活動の観察 ・思考ツールの記述 ・ワークシートの記述
見通し2	古典と現代文とを横断させて、ものの捉え方について古典世界と現代とを比較し、結果を考察することは、古人のものの捉え方の特徴を明らかにするために有効であったか。	

3 抽出生徒

生徒 A	古典に関する興味や関心は比較的高いが、現代や自分とのつながりは感じられていない。数値化・可視化を通して情報を関連付けながら古人の思いを深く考えさせることや、古典世界と現代とを具体的に比較し、結果を考察することで、古人のものの捉え方を理解させたい。そこから、古典と現代とのつながりや自己の生き方を振り返らせたい。
------	---

4 評価規準

[関心・意欲・態度]	[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] [読むこと]	[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]
古典の文章に関心をもち、古人のものの捉え方について、個人での考察や交流を通じて考えを深めようとしている。	古人の思いを深く考えることを通して、古人のものの捉え方の特徴に気付いたり、古典と現代文との横断を通して、古人のものの捉え方の特徴を、更に明らかにしたりすることができている。	歴史的仮名遣いや区切りに気を付けたり、作品がもつ特徴的なリズムや表現を生かしたりして朗読することができている。

5 指導計画

(1) 授業実践 I (「枕草子」)

過程	時	基本的な学習活動	指導上の留意点
つかむ	第一時	<ul style="list-style-type: none"> 単元の課題を捉える。 自分たちの季節感を話し合う。 音読し、大体的内容をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の課題を、「四季の美しさについての作者の捉え方を理解すること」とする。
追究する	第二時	<p>手立て：現代文との横断</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代詩「見えないだけ」と「枕草子」を横断し、古典学習への興味・関心を高める。 四季の情景描写を、視覚・聴覚・皮膚感覚から捉え、作者の四季の美しさの捉え方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な風物の美という題材の共通性から現代詩と横断させ、作品に現代的な価値を与え、学習への動機付けを図る。 清少納言に繊細な感覚や鋭い観察力などがあることを、本文の叙述に基づいて理解させる。
	第三時	<p>手立て：思考ツールの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 「枕草子」が書かれた当時の一般的な美意識を知る。 思考ツールを活用し、当時の一般的な美意識と作者が賛美する風物を比較する。 四季の美しさについての作者の捉え方の特徴に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 古今和歌集に掲載されている風物を紹介し、当時の一般的な美意識を知らせる。 作者の美意識をエリアシート上に可視化させ、ものの捉え方の特徴に気付かせる。 当時の一般的な美意識を踏まえながら、身近な風物の中に新しい美を発見した作者のものの捉え方の独自性に気付かせる。
追究すまるとめ	第四時	<p>手立て：現代文との横断</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の全現代文と横断し、ものの捉え方について「枕草子」現代の作品を比較する。 作者のものの捉え方と現代との共通点や類似点がある作品を探し、その理由や当時の読者の反応について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な対象や事象の捉え方について、古典世界と現代との共通点や類似点が多くあることを、具体的な叙述に基づいて明らかにさせる。 比較により見いだされた共通点や類似点について、気付いたことや思ったことを書き出すことで、作者のものの捉え方の特徴を明らかにさせる。

(2) 授業実践Ⅱ(「平家物語」)

過程	時	基本的な学習活動	指導上の留意点
つかむ	第一時	<ul style="list-style-type: none"> ・ Society5.0動画を視聴し、近未来の社会の姿を知る。 ・ 手立て：現代文との横断 ・ 協力校の図書室に配架してある「君たちはどう生きるか」の教師の読み上げを聞く。 ・ 自分たちがもつ生き方の価値観について話し合う。 ・ 冒頭部分を繰り返し音読する。 ・ 現代語訳を参考に意味をつかむ。 ・ 「平家物語」の世界観やテーマを知る。 ・ 単元の課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の生き方というテーマの共通性から現代の一般書籍と横断させ、作品に現代的な価値を与え、学習への動機付けを図る。 ・ 予測不能な現代に、人間の生き方を問う本がベストセラーになっている事実を知らせる。 ・ 人間の生きる姿が「平家物語」を文学として成立させているテーマの一つであることを知らせる。 ・ 単元の課題を「平家物語」で優先される価値観を理解することとする。
追究する	第二時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代語による解説文を読み、「扇の的」場面に至るまでの経緯を捉える。 ・ 現代語訳などを参考にして場面の展開や人物の関係などを捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル教科書を活用し、源氏や平家の成り立ちの違い、屋島の合戦に至るまでの経緯、武士の身分制度など当時の時代背景や登場人物の基本的な価値観などを端的に知らせる。
	第三時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 与一が矢を射るまでの場面について、場面の状況を捉える。 ・ 与一の心情の変化を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気象条件や周囲の様子や、義経の命令に逆らえない与一の状況を捉えさせる。 ・ 吉凶矢について説明し、扇の的の場面が源氏や那須一族の名誉を懸けた状況だったことから心情を想像させる。
	第四時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 与一が的を射た後の場面について、平家の老兵が舞を舞った経緯を捉える。 ・ 「あ、射たり」「情けなし」の思いを考える。 ・ 「弓流し」の場面を読み、場面の状況や義経の行動の意味を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 源氏側の様々な立場の武士が、いろいろな思いをもっていることに気付かせる。 ・ 源氏の総大将としての義経の覚悟を捉えさせ、自分の考えをもたせる。
	第五時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手立て：思考ツールの活用 ・ 手立て：現代文との横断 ・ 「平家物語」と「光る地平線」の登場人物が優先する価値観を比較する。 ・ 「平家物語」で優先される価値観の特徴や、現代との共通点、相違点について指摘する。特に相違点に着目させ、その理由について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物が優先する価値観をレーダーチャートシート上で数値化させ、ものの捉え方の特徴に気付かせる。 ・ ものの捉え方について、古典世界と現代との共通点や相違点を、具体的な叙述に基づいて明らかにさせる。 ・ 特に相違点に注目させ、その理由について考えることで、登場人物のものの捉え方の特徴を明らかにさせる。
	まとめ	第六時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の学びを振り返る ・ 「平家物語」の登場人物が生きる上で優先している価値観を、本の帯のキャッチコピーとしてまとめる。

VI 研究の結果と考察

1 思考ツールを活用して、数値化・可視化を通して情報を関連付けながら古典の登場人物や作者の思いを深く考えることは、古人のものの捉え方の特徴に気付くために有効であったか（見通し1）。

(1) 実践1の全体の学習の様子

「清少納言の季節に対する見方や感じ方を知ろう」という課題を提示した。まず、平安時代には、固定化された美意識があったことを説明した。具体的には、当時の和歌的伝統美において、花（桜）・時鳥・紅葉・雪が春夏秋冬を代表する代表的な風物だったことを古今和歌集に詠まれている数の多さを根拠に説明した。次に、春の梅・鶯・蛙・山吹、夏の螢、秋の月・萩・鹿・虫・雁を加えた風物を当時の一般的な美意識として時代背景エリアに示した（図4）。

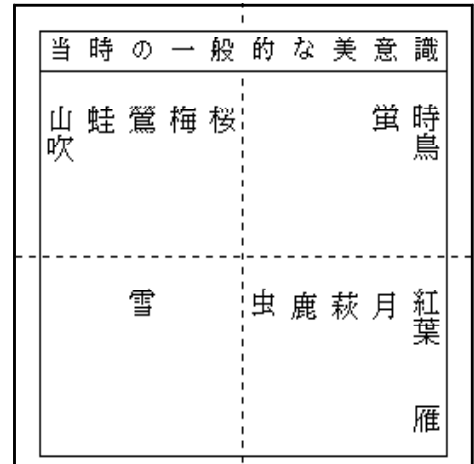


図4 時代背景エリア

その上で、清少納言が賛美する風物をシート上に書き表させた。その際には、清少納言が褒める風物が当時の一般的な美意識と似ていたり関連が強かったりすれば時代背景エリアの近くに、異なる要素が大きかったり関連が弱かったりすれば時代背景エリアから離して書くように指示して関連の強さを可視化させた。生徒たちは、個人での考察の後、図5のように表現しながら思考を深めるためにマグネットを操作して班で交流したり、図6のように特徴的な考えをもつ複数の班の発表を参考にしたりして、思考を深めた。

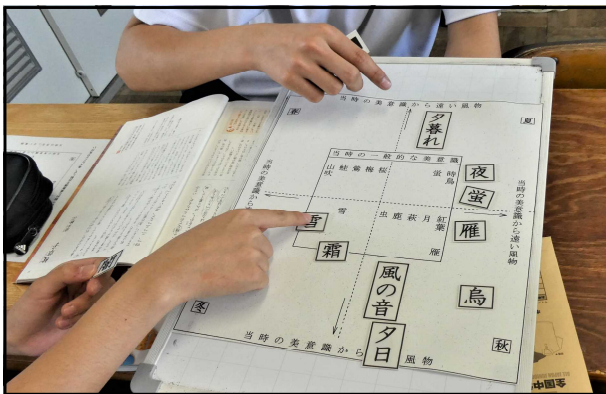


図5 班交流の様子

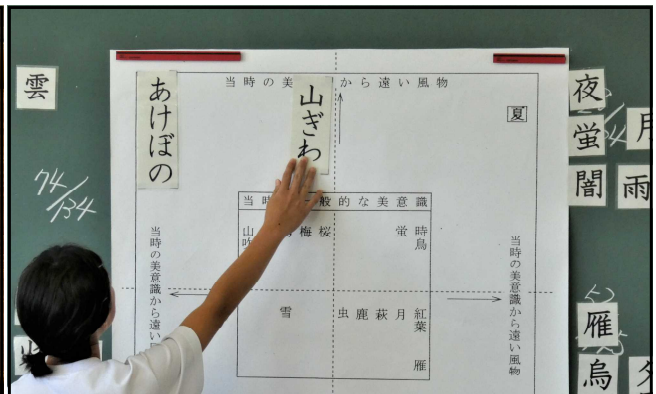


図6 全体発表の様子

最終的に、作者のものの捉え方について気付いたことを記述でまとめた。その結果、54%の生徒が、作者は独自の美意識をもっていたことを記述し、25%の生徒が、作者が当時の一般的な美意識を踏まえた上でのものの捉え方の独自性をもっていたことを記述した。これらは、エリアシート上の風物の重なりや隔たりから得た考察の結果であり内容的に妥当である。また、8%の生徒が、鋭い観察力や映像的な美を表現したことや、より多くの風物を紹介したことなどを記述した。これは、エリアシート上の風物の重なりや隔たりから得た考察を更に発展させたものであり、内容的に妥当である。合計すると、作者の美意識について内容的に妥当な記述ができた生徒は87%であった（図7）。

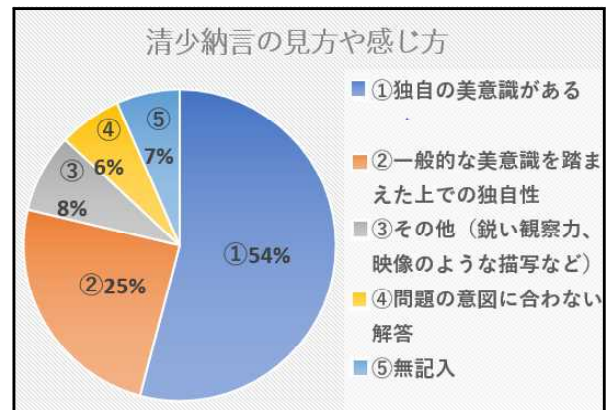


図7 エリアシートで捉えた作者の見方や感じ方

これらのことから、思考ツールを活用して、可視化を通して情報を関連付けながら古典作品の作者の思いを深く考えることは、古人のものの捉え方の特徴に気付くために有効であったと考える。

(2) 実践1の抽出生徒の学習の様子

生徒Aは、あけぼの・雲・山ぎわという時刻や空の描写は、花や鳥などの当時の一般的な春の美意識と関連が弱いとして左端に離して書いた。雨は中央から離して書いたが、夜・月・闇は当時の一般的な夏の美意識である蛸が出現する時刻と関連が強いとして中央に寄せて書いた。鳥は当時の一般的な秋の美意識である鹿や雁と鳥獣という意味で関連が強いとして中央に寄せた。夕暮れ・夕日は鳥の帰巣風景として描かれているためにその近くに書いた。風の音・虫の音・霜は関連の強さから時代背景エリアとそれ以外のエリアをまたいで書き、つとめて・火・炭は中央から離して書いた(図8)。考えたこと、気付いたこととして、「一般的な美意識から離れているものが多く、読者はその見方に驚いたと思う。

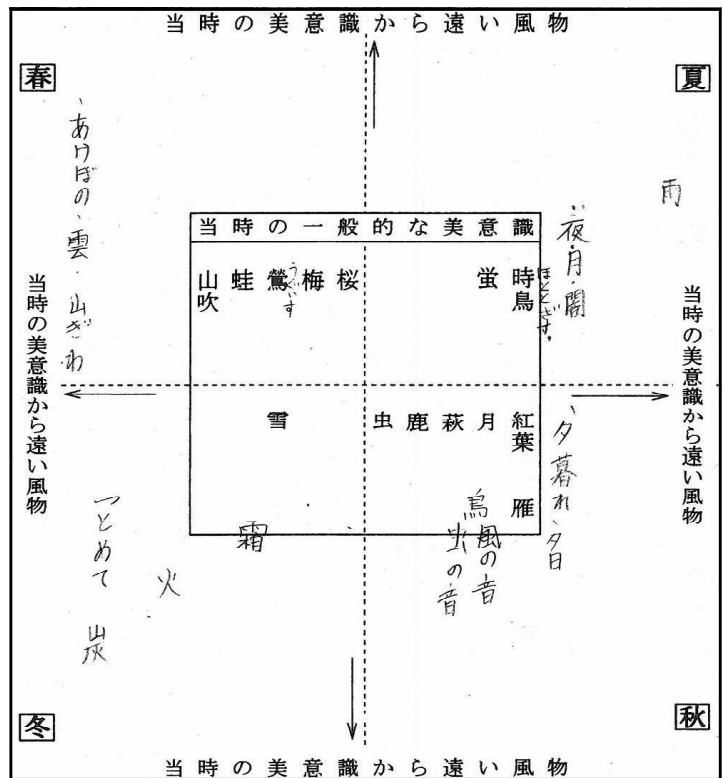


図8 生徒Aの「枕草子」エリアシート

清少納言は、人から注目されない風物に注目することで季節をより味わい深いものとして読者に伝えようとしたと思う。」と書いた。生徒Aは、思考ツールを活用して、可視化を通して情報を関連付けながら古典の作者の思いを深く考えることで、古人のものの捉え方の特徴に気付くことができたと言える。

(3) 実践2の全体の学習の様子

『平家物語』の登場人物たちが優先する価値観を考えよう」という課題を提示した。生徒たちは、まず、古文中の登場人物の言動を根拠にして、「平家物語」の登場人物が生きる上で優先していると思われる価値観を考えていった。具体的には、「名誉」「強さ」という当時の武士の価値観に関わる観点や、「自分の意志」という当時の身分制度に深く影響される観点、及び「優しさ」「喜びや楽しさ」「他人の命」「自分の命」という生徒が叙述から根拠をもって数値を判断できる観点について6段階の数値で決定していった。

次に、数値を線で結び図表化した。レーダーチャートシートが図表化されたことにより、登場人物の価値観が視覚的に捉えやすくなった。図9は、1組(29人)と3組(31人)の合計60人が個人で考えた数値を合計して観点ごとに平均値化したものである。

さらに、生徒たちは班で交流したり、特徴的な考えをもつ複数の班の発表を参考にしたりして、思考を深めていった。

最終的に、「平家物語」の登場人物が優先する価値観や犠牲にする価値観の特徴について、記述でまとめた。記述の中で生徒が注目した観点を整理したものが、次ページの図10・11である。

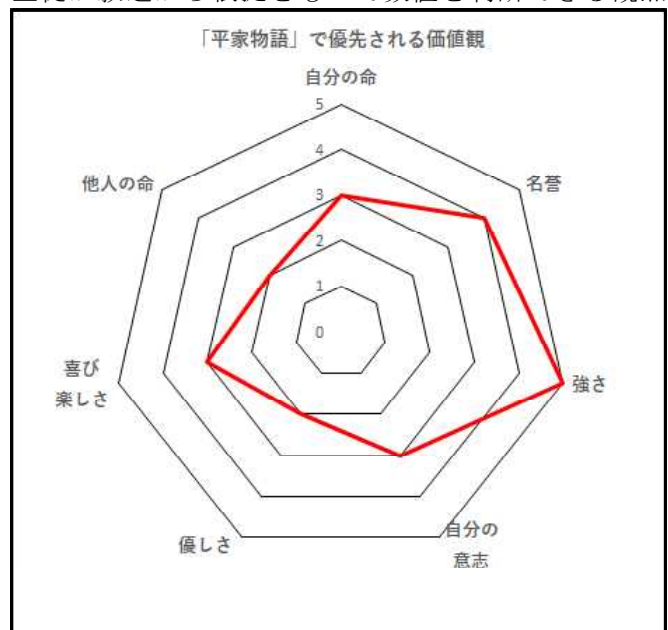


図9 「平家物語」レーダーチャート(2クラスの平均値)

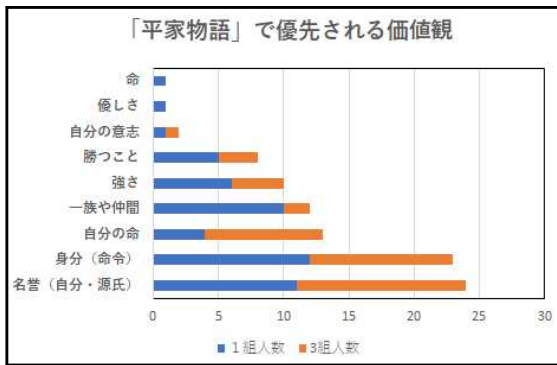


図10 生徒が捉えた優先される価値観

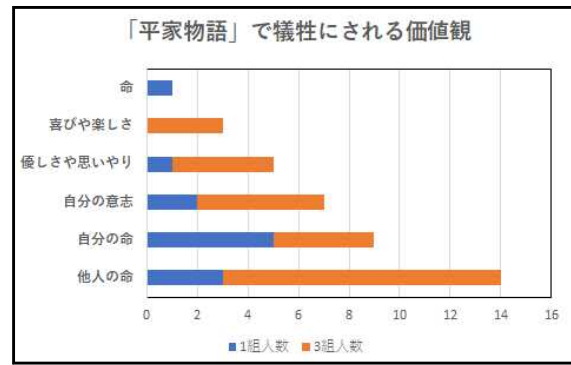


図11 生徒が捉えた犠牲にされる価値観

「平家物語」の登場人物が優先する価値観、あるいは犠牲にする価値観のいずれかを、具体的な項目を挙げて記述できた生徒は全体の95%であり、内容も図10・11のように「平家物語」に描かれたものの捉え方の特徴に迫る妥当なものであった。

なお、「命」や「優しさ」は優先される価値観と犠牲にされる価値観の両方に指摘されている。これらの根拠はいずれも登場人物の言動に基づいており、武士としての立場と人間的な思いの間で葛藤する「平家物語」の登場人物たちの姿を捉えた結果であると言える。

これらのことから、思考ツールを活用して、数値化・可視化を通して情報を関連付けながら古典の登場人物の思いを深く考えることは、古人のものの捉え方の特徴に気付くために有効であったと考える。

(4) 実践2の抽出生徒の学習の様子

生徒Aは、与一が扇の的に向かい神に祈る場面の言葉に、命を懸ける覚悟と生きて本国へ帰りたい思いが混在していることから「自分の命」を3にした。与一が名誉のために戦う姿から「名誉」を5にした。武士として強さが要求されていることから「強さ」を5にした。与一が一旦は辞退しながらも命令に逆らえなかったことから、「自分の意志」を3にした。扇を射抜いた場面、源氏側はうれしそうだったが、男を射倒したときには源氏側の一部から男を哀れむ声も上がったことから「優しさ」と「喜び楽しさ」を2にした。義経が与一の命を軽く見ている（自害を覚悟させるような命令を与えている）ことから「他人の命」を1にした。

なお、生徒Aは班での交流により、敵を倒すためには、自分が生きて戦わなければならないことから「自分の命」を5とする見方や、勝つためなら手段を選ばないことから「優しさ」を1とする見方、与一が自分の命を犠牲にしても他人（源氏一族や義経）の命を守ることから「他人の命」を5とする見方を参考にして思考を深めていった（図12）。交流の結果、生徒Aが自分の所属班で決定した数値は、

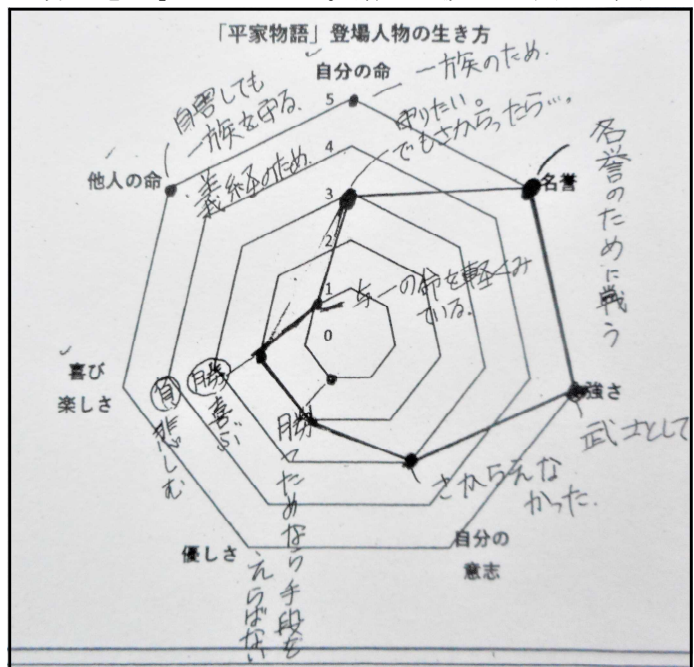


図12 生徒Aの「平家物語」レーダーチャートシート

「自分の命」から時計回りで3・5・4・2・1・2・2となった。

最終的に生徒Aは、「平家物語の時代は、今よりも上下関係が厳しく、どうしても上の人のことばかり考えていて、自分の命や他人の命をおろそかにしがちだ」と記述した。

生徒Aは、思考ツールを活用して、数値化・可視化を通して情報を関連付けながら古典の登場人物の思いを深く考えることで、古人のものの捉え方の特徴に気付くことができたと言える。

2 古典と現代文とを横断させて、ものの捉え方について古典世界と現代とを比較し、結果を考察することは、古人のものの捉え方の特徴を明らかにするために有効であったか（見通し2）。

(1) 実践1の全体の学習の様子

「枕草子」における現代文との横断の意図は、ものの捉え方について清少納言と現代との共通点や類似点を発見し、その特徴を明らかにすることである。横断させる現代文は、既習の全現代文とした。既習の現代文の多くは、「枕草子」と同じく身近な対象や事象を扱っているが、独自性のある作品や物事をよく観察して書かれた作品が多いことが特徴である。そのため、ものの捉え方について古典世界と現代との共通点や類似点を容易に発見することができると思った。清少納言のものの捉え方を①自然や身の回りのものへの注目②鋭い観察力③繊細な感覚④自由な表現⑤独自性⑥読者への新しい発見や考え方の提示に整理した。その上で、この6観点に当てはまる作品を探した。観点①は、題材の共通性に直接関係する観点である。また、観点②から⑥は題材の共通性を踏まえた上で、清少納言のものの捉え方について現代との共通点や類似点に気付かせるための観点である。

比較の結果、清少納言のものの捉え方と共通点や類似点が見付かった現代文の数は、一人平均14作品であった。例えば、観点⑤で詩「野原はうたう」を指摘した生徒は、「動植物の視点で描かれているから」と作品の独自性を具体的に説明した。1組32人と3組32人の合計64人全員が、6観点のうち複数あるいは全ての観点において清少納言のものの捉え方と共通点がある現代の作品を指摘し、その理由を記述することができた。さらに、比較の結果から気付いたことや思ったことを自由に記述させたところ、作者のものの捉え方は時代を問わず人を引き付ける魅力があることなどについての記述が多く見られた。

これらのことから、古典と現代文とを横断させて、ものの捉え方について古典世界と現代とを比較し、結果を考察することは、古人のものの捉え方の特徴を明らかにするために有効であったと考える。

(2) 実践1の抽出生徒の学習の様子

生徒Aの横断の様子は図13の通りである。生徒Aは、観点①③⑤⑥について、それぞれ1作品を指摘し、理由を記述した。内容は詩の題材、物語の描写の特徴及び筆者が読者に提示する新しい考え方など妥当なものであった。

その後、交流により観点②④⑤について、それぞれ2作品とそれに関する理由を得ることができた。内容は詩や説明文の作者（筆者）の観察の鋭さ、物語における心情の表現の仕方や詩における擬人法を効果的に用いた表現方法などの妥当なものであった。古典と現代文との横断により気付いたこととして、生徒Aは「現代の作品にも人と違った独自の視点で描かれているものが多かった。また、その作品に対する捉え方は人それぞれ違い、一つの作品に色々な意見があるのは、清少納言が生きた時代と同じだと思う。」と記述した。生徒Aは、古典と現代文とを横断させて、ものの捉え方について古典世界と現代とを比較し、結果を考察することで、古人のものの捉え方の特徴を明らかにすることができたと言える。

⑥ 新しい発見や新しい考え方、新しい魅力を読者に伝えている。	⑤ 他とは違う独自性がある。	④ 常識や周りにとらわれすぎず、自分の心の中を、自由に表現している。	③ 視覚、聴覚、皮膚感覚などの繊細な感覚がある。	② 鋭い観察力がある。	① 自然や、身のまわりの風景を見つめている。	作者のものの見方や考え方の共通点のある文章の題名	理由（自分の言葉で簡潔に）
新しい発見や新しい考え方、新しい魅力を読者に伝えている。	他とは違う独自性がある。	常識や周りにとらわれすぎず、自分の心の中を、自由に表現している。	視覚、聴覚、皮膚感覚などの繊細な感覚がある。	鋭い観察力がある。	自然や、身のまわりの風景を見つめている。	共通点のある文章の題名	理由（自分の言葉で簡潔に）
カイトコは大きな根	野原はうたう	花ぐもりの向こう	魚と虫	あしたこそ			
野原について、たけが私たちが普段注目しないようなところに注目し新しい発見も伝えている。	野原はうたうについて説明しているから。私たちが普段感じないようなところについて説明しているから。誰かに呼ばれたいと思っているから。自分が見たいところを自由に表現しているから。遠回しに表現されているから。私たちが普段感じないようなところについて説明しているから。	川口君と仲良くなるというかつうりやで遠回しに表現されているから。私たちが普段感じないようなところについて説明しているから。誰かに呼ばれたいと思っているから。自分が見たいところを自由に表現しているから。遠回しに表現されているから。	人物たちの話し声や曇り雲、体育館に響くリズムやボールをつく音なども丁寧に描きこまれているから。	柳の葉を揺るおけや遠く柳に見える鳥の動きをよく見ているから。	身の周りにいろいろな音が聞こえている感じが表現されているから。		

図13 生徒Aが横断の際に記したワークシート

生徒Aは、古典と現代文とを横断させて、ものの捉え方について古典世界と現代とを比較し、結果を考察することで、古人のものの捉え方の特徴を明らかにすることができたと言える。

(3) 実践2の全体の学習の様子

「平家物語」における現代文との横断の意図は、ものの捉え方についての現代との共通点や相違点を発見し、特に相違点に注目させることで、その特徴を明らかにすることである。横断させる現代文は、既習の物語「光る地平線」とした。「光る地平線」は「平家物語」と同じく、命を扱っている。しかし、「平家物語」が命を懸けて何かを成し遂げようとした人物たちが描かれているのに対し、「光る地平線」では生きることの喜びそのものが描かれている。そのため、ものの捉え方について古典世界と現代との相違点を容易に発見することができると思った。まず、生徒たちは「光る地平線」で優先される価値観を考察し、レーダーチャートシートに数値化していった。次に、それを「平家物語」で優先される価値観と重ね合わせて比較した。図14は1組(29人)と3組(31人)の合計60人が個人で考えた数値を合計して平均値化したものである。

生徒たちは個人での考察の後、班での交流や(図15)、全体発表を通して思考を深めていった。最終的に、「平家物語」で優先される価値観について、「光る地平線」との比較で気付いたことを記述でまとめた。生徒が記述の中で注目した観点が図16・17である。



図14 作品の比較(2クラスの平均値)

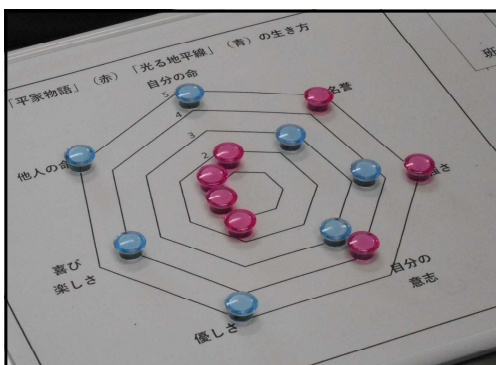


図15 班の交流

比較の結果、共通点あるいは相違点のいずれかを、具体的な項目を挙げて記述できた生徒は全体の92%であり、その内容も図16・17のように「平家物語」のものの捉え方の特徴に迫る妥当なものであった。また、相違点に注目した上で、その理由を考察させるところ、時代が人間に与える影響などについて考えることができた。

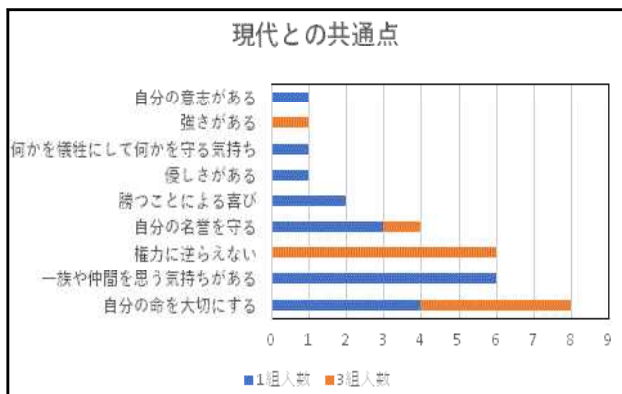


図16 横断から捉えた現代との共通点

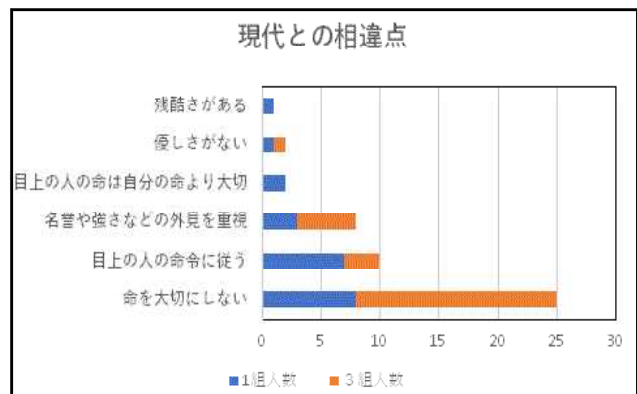


図17 横断から捉えた現代との相違点

これらのことから、古典と現代文とを横断させる場を設定し、ものの捉え方について古典世界と現代を比較し、結果を考察することは、古人のものの捉え方の特徴を明らかにするために有効であったと考える。

(4) 実践2の抽出生徒の学習の様子

生徒Aは、「光る地平線」において、若いライオンが他の獣の命を犠牲にしながら生きる姿から「自分の命」を5にした。若いライオンが群れのリーダーらしく生きようとする姿から「名誉」や「強さ」を4にした。若いライオンが自分で生きることを決めた姿から「自分の意志」を4にした。年を取ったライオンが他の獣たちに肉を与えていることや、若いライオンの喜びから「優しさ」「喜び楽しさ」「他人の命」を5にした(次ページ図18)。なお、生徒Aは、年を取ったライオンが他

の獣に肉を分けていることから「自分の命」を3にする見方や、他人から肉をもらって生きることから「自分の意志」を0にする見方などを参考にしながら思考を深めていった。生徒Aが所属班で決定した数値は「自分の命」から時計回りで、4・3・3・4・5・4・5となった。

生徒Aは、古典と現代文を比較して気付いたこととして、「現代の社会でも『自分の名誉のためなら』と他人を蹴落としたり他人の名誉を傷つけたりしていることがあるので、その点で言えば現代と（「平家物語」の生き方は）変わっていないと思う。一方で、「他人の命」は、現代ではとても大切にしている。」と記述した。

生徒Aは、古典と現代文とを横断させて、ものの捉え方について古典世界と現代とを比較し、結果を考察することで、古人のものの捉え方の特徴を明らかにすることができたと言える。



図18 生徒Aの作品の比較

VII 研究のまとめ

1 成果

- 思考ツールの活用により、古人の思いについての深い考察と活発な交流が可能になり、古人のものの捉え方の特徴に気付くことができた。
- 古典と現代文との横断により、叙述に基づいた比較が可能になり、古典世界と現代との共通点や類似点、及び相違点を考察することで、古人のものの捉え方の特徴を明らかにできた。

2 課題

生徒が自分で思考ツールの観点を設定したり作成したりするなど、更に主体的な考察を促すような手立ての工夫が必要である。

VIII 提言

古人のものの捉え方を理解することで、生徒は古典に描かれた世界を楽しみ、古典に深く親しむことができるようになる。そのためには、思考ツールを活用して古人の思いを深く考えることや、古典と現代文とを横断して古典世界と現代とを効果的に比較し、その結果を考察することが有効である。特に追究する過程を中心に横断の場を設定することで、古人のものの捉え方の特徴が明らかになると考える。

<参考文献>

- ・文部科学省 『中学校学習指導要領』 (2017)
- ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説国語編』 (2018)
- ・井上 志音 著 『教科横断を導入した国語科探究学習の実践』 一般財団法人 日本私学教育研究所 平成28年度 委託研究成果報告書(2018)
- ・藤本 宗利 著 『枕草子研究』 風間書房 (2002)
- ・田村 学 黒上 晴夫 著 『「思考ツール」の授業』 小学館 (2013)

<担当指導主事>

坂本 直之 尾形 一美